



～ ニューヨーク補習授業校だより ～

JWSNYの爽風

令和3年(2021)
6月19日発行

Breeze
第5号



校長 川崎淳一郎

補習授業校 LI校の紹介!

～ 卒業生の体験談 特集No. 2 ～

【海外子女芸術作品コンクールの応募より】

・6月12日締め切りまでに多くの作品が応募されました。作文、詩、短歌、俳句の中から、それぞれの生活感や体験が、心情豊かに表現されていました。コロナ禍の生活、オンライン授業、友達のこと、家族のこと、夏休みに向けての思いなど、様々なことが書かれていました。ここに暮らし、日本に一時帰国や体験入学をしたり、アメリカで日本の文化を学習して気づいたりしたこと、「この国をもっと知り、補習校で日本語や日本のことをもっと学びたい。」ことなど、今回の作品に見ることができました。

日本	アメリカ
・歩いて登下校、ランドセル	・バスや車で登下校
・学校の校則が多い。	・自分のことは自分で決定
・みんな同じことを学ぶ。	・できる子は、別のコースへ
・そうじや係活動がある。	・カストディアンがいる。
・食べ物がおいしい。	・肉おいしい、お菓子甘すぎ
・給食時間（揚げパンなど）	・晴れた日の外でのお弁当
・体育の時間（とび箱など）	・みんなで楽しむ〇〇デー
・日本文化（夏祭り・花火等）	・多くの国の文化と出会う。

【ロングアイランド校 = LI校】

住所：32-24 コーポラルケネディストリート、ベイサイド



<6月19日現在>

幼児部 1クラス
初等部 8クラス
中等部 3クラス
高等部 2クラス



● LI校（ベイサイドハイスクール）

LI校の借用校は、マンハッタン東、クイーンズ区ベイサイドにあり、マンハッタンから電車・車で約40分の所に位置しています。Tel (914) 563-6634 (授業日のみ)



古本市



秋祭り



授業



中高スピーチ大会



講堂

【L I 校卒業生の体験談 ①】

※ 2021年1月にL I校で実施した“卒業生の話を聞く会”のゲスト卒業生の話から抜粋

7歳で渡米してから高等部卒業までずっと補習校に通った。コーネル大学卒業後は、政府の研究機関で働き、アルバートアインシュタイン医科大学を卒業、現在はコロラド大学で緊急救命医として勤務。補習校の経験はいろんな面があるが、日本語が話せるというだけでなく、振り返ると日本人のネットワークを広げるという意味でも自分のキャリア形成の中でも欠かせないものであった。メディカルスクールでもNYのベースにある米国日本人医師会などを通して奨学金を得たのも補習校での活動が認められたからである。医師会の日本人の大人と接するためにも、まともな日本語を使う必要があり、いろんな面で補習校にお世話になってきて今の自分がある。

今は、救命救急医として働いているが、研修医なので週5日～6日勤務している。コロナは病院では大変だが、研修の時期は、病院で寝泊まりするくらい勤務時間が長い。コロラドなので休みの際はスキーに行ったりしている。

日本の大学も見学まで行ったが、キャンパスの雰囲気、学生の意気込み、何故大学に行こうと思った時に日米で学生のモチベーションが違ったように感じた。日本の大学ではサークルがメインの会話になっていたの、その時は、自分は大学に何しに行くんだらうと考えた。勉強をしたかった思いが強かったので、アメリカの大学が集中できるかと思い、進路に選んだ。見学に行って感じることは人それぞれだから、自分はどのような環境であれば、一番伸びるかという視点で進路を選ぶと良いと思う。

メディカルスクールの方でカレッジエッセーを読む側になったが、エッセーは単にレジュメのために描いたもの、あるいは本当にやりたいことではなかったら内容が薄く、すぐにばれてしまう。大学に行ってから何をやるかが大事で、やりたいことをやらないと人は輝かない。本当にやりたいことをやっている人こそ、その大学が欲しい人材になる。やりたいことを見つけて時間を費やすことが大切。

卒業して社会人になって長いので、周りを見てみるとバイリンガルであること、補習校にいたことを振り返ると、スタートラインに立てるかどうかである。面接で何を話すかというのは、結局何が自分にとって大切かということ。補習校にいたときは、明らかに帰国組だった子がアメリカで活躍していて、あいつが？という子が日本で仕事をしている。今やっていることが、どう役に立つか今は分からない。でも補習校に通っていなかったら、また先生方とちゃんと会話ができる経験がなかったらこういうチャンスはなかったということが実際にある。このまま頑張っていれば、いつか力になってスタートラインに立てる資格になる。面接ではその時の自分の価値観や何が大切かということ伝えること。まず、みんなが土曜日、補習校に通っていること、これが5年後、10年後に意味をもってくる。

(2009年卒、コロラド大学救命救急医)

補習校は年中から高等部卒業まで通った。生まれも育ちもNY、Bronxサイエンス高校に通い、今はプリンストン大学で工学を勉強している。補習校で学んだことの第一は「言葉」とともに「何かを長く続けること」である。私たち多くのティーンエイジャーは、人生経験があまりない。でも補習校にいる皆さんは自信を持って欲しい。自分で選んだ訳ではないと思うけれど、補習校で積み重ねた時間、何百、何千時間は、他の人にはない貴重なものである。大学に入ってから、アメリカで育った日本人の仲間と知り合い、仲良くなった。ただ、ほとんどの学生は、バイリンガルといっても日常会話くらいしかできない。だから今、補習校で勉強していることは後で必ず役に立つ。

私が嬉しかったことは、思いがけないところで日本語を通して人と繋がることのできたことである。大学で「日本語テーブル」という活動に参加しているが、教授や研究者と英語を使わずに日本のニュースや政治の話ができたのは補習校のおかげだと思っている。→

→高校の夏、コーネル大学医学部のラボでインターンシップをやった時、日本人研究者がいて日本語で色々な話をすることができたことも懐かしい思い出となっている。今は、家からずっと Zoom で生活をしていて、リズムをつけている。新学期から寮にはいるのが楽しみです。

一年前、アメリカの大学か、日本の大学か悩んだ。でも勉強する環境、出会いたい人たち、何を学びたいか、家との距離をよく考えた結果、自分はアメリカで教育を受けてきたし、もし機会があれば日本に留学もできるのでアメリカでやりたい勉強をしようと思った。「大学のエッセイについて」は書いたばかりなので、覚えている。自分は補習校のことを書いたが、本当に好きなものに関して書けば良い。補習校で習ったことはもう一つ、エッセイにも書いたが両立は苦しかった。高校で入っていたロボティクスチームと補習校の時間が重なってしまい、両方とも100%こなせていない自分のがっかりし、罪悪感を抱いたことがある。それを乗り越えるために何を優先するか、どうこなすか、どのくらいの程度でやるか、優先順位をつけてきた。そのことがマネージメントスキルを磨くことにつながった。

大学のインタビューでは、相手に覚えてもらうことが大事。TPO に合う服装や、相手に印象付けるものを持って行ったり、レジュメを用意すると良いです。

(2019年卒 プリンストン大学・工学部1年生)



秋祭り



入園入学式



節分



運動会



茶道体験



もちつき大会



書き初め



七夕祭り



中高等部球技大会



絵画展

